

令和4年度温州みかん果実の病虫害発生状況調査結果

長崎県農林技術開発センター
環境研究部門 病虫害発生予察室
(長崎県病虫害防除所)

1 調査の目的

温州みかんの収穫果実の病虫害被害状況を調査し、当年の病虫害発生状況を的確に把握することで、改善技術作成や防除指導の参考にする。

2 調査概要

(1) 対象産地

諫早市(多良見)、西海市、大村市、雲仙市(瑞穂)、佐世保市

(2) 対象農家

各産地の防除暦に準じた防除を行っている生産者1地区3名を選定

(3) 調査対象品種

各産地の主要な品種(原口早生、宮川早生、興津早生、させぼ温州等)

(4) 調査時期

令和4年11月11～22日(うち4日間)

(5) 調査項目

そうか病、かいよう病、黒点病(前期型、後期型)、灰色かび病、すす病、ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、訪花性害虫、チャノキイロアザミウマ(果梗部、果頂部)、ハナアザミウマ類、サビダニ、ミカンハダニ、カメムシ類、風ずれ、その他

(6) 調査方法

1生産者あたり200個の果実を任意に抽出して病虫害の被害状況を肉眼により観察した。ただし、調査対象は家庭選果前の果実とした。調査は被害程度別に行い、調査項目ごとに被害果率、被害度を算出した。

3 調査結果及び考察

(1) かいよう病

地点により差があるものの、平年より発生が多かった。前年の発生が多く伝染源となる越冬菌が多い状態であったと推定され、主要な感染時期の強風雨により発病葉からの感染が助長されたためと考えられた。

(2) そうか病

今回の調査では被害果の発生を確認できなかったものの、春季～収穫前までの圃場における調査では、葉、果実ともに平年よりやや多い状況であったので、越冬菌による発芽期からの感染に注意し、初期感染の予防を徹底する必要がある。

(3) 黒点病

前期型病斑は平年に比べやや多く、後期型病斑は平年よりやや少ない発生であった。総合的には平年並であったと考えられる、このような様相となった要因は、7月中旬および8月中旬に曇天が続き

降水量も非常に多く、降雨状況に応じて実施すべき薬剤散布が十分にできなかった園地があったと考えられた。

また、前述の降雨のあった時期を除けば、梅雨期から乾燥傾向の気象が続き、枯れ枝が増加した園が散見され、感染源となったと考えられた。

(4) 灰色かび病

平年に比べ多い発生であった。感染期にあたる5月中旬に曇天が続き、降水量も平年より多かったことが要因として考えられた。

(5) すず病

平年並の発生であった。

(6) チャノキイロアザミウマ

果梗部の被害は平年に比べやや少なく、果頂部の被害は平年並の発生であった。

(7) ミカンハダニ

平年に比べやや多い被害であった。要因として9月下旬以降、降雨が少なく増殖が助長されたと考えられた。

(8) カイガラムシ類（アカマルカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、ヤノネカイガラムシ）

アカマルカイガラムシは平年よりやや少なかった。ナシマルカイガラムシは平年よりやや多かった。ヤノネカイガラムシは認められなかった。

(9) ハナアザミウマ類

平年より多い発生であった。9月下旬以降の降水量が少なく、発生が助長されたと考えられた。また、同時防除されるカメムシ類の発生が少なかった園では防除圧が低かったことも要因であった。

(10) 訪花性害虫

平年並の発生であった。

(11) サビダニ

平年よりやや多い発生であった。9月下旬以降の降水量が少なく、発生が助長されたと考えられた。

(12) カメムシ類

フェロモントラップによる調査では、新世代成虫の発生は平年並と見られ、被害の発生が懸念されたが、今回の調査では被害の発生は認められなかった。

(13) 風ずれ

平年並の発生であった。

(14) 葉害

発生は認められなかった。

(15) その他

主な症状として、日焼け、生傷（押し傷、刺し傷）が見られ、平年並の発生であった。

表 令和4年度温州みかん果実の病害虫発生状況調査結果

地区名	調査項目	かいよう病	そうか病	黒点病		灰色かび病	すす病	チャノキイロアザミウマ		ハナアザミウマ類	ミカンハダニ	アカマルカイガラムシ	ナシマルカイガラムシ	ヤノネカイガラムシ	訪花性害虫	サビダニ	ホコリダニ	カメモシ類	風ずれ	その他※
				前期	後期			果梗	果頂											
諫早市 (多良見)	被害果率(%)	0.7	0	40.0	41.5	39.2	0.3	3.2	6.7	12.3	11.3	0.0	0.8	0.0	0.8	0.7	1.0	0	19.2	0.5
	被害度	0.1	0	7.7	7.5	7.2	0.05	0.5	1.0	2.3	1.9	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0	2.8	0.2
西海市 (西彼)	被害果率(%)	0	0	17.2	17.7	22.3	0	4.3	3.3	0	0	0.3	0.7	0	0.7	0.5	8.5	0	23.3	5.8
	被害度	0	0	4.0	3.0	3.9	0	0.8	0.6	0	0	0.05	0.1	0	0.1	0.1	1.5	0	3.4	1.0
大村市	被害果率(%)	0	0	29.7	13.7	17.7	0	1.8	1.3	1.2	1.8	1.8	2.8	0	0.5	0.5	0.8	0	38.8	1.7
	被害度	0	0	5.0	2.5	2.8	0	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4	0.5	0	0.1	0.1	0.1	0	6.2	0.2
雲仙市 (瑞穂)	被害果率(%)	7.5	0	10.2	8.2	28.7	1.0	4.2	3.0	6.7	0.3	0.3	0.2	0	2.0	0	0	0	44.0	0.7
	被害度	1.6	0	1.7	1.5	6.6	0.1	0.7	0.9	1.4	0.05	0.1	0.02	0	0.6	0	0	0	9.1	0.1
佐世保市	被害果率(%)	1.7	0	3.2	13.2	23.8	0	0.3	1.0	1.5	0.8	0	0	0	0.8	0.5	3.2	0	48.0	1.3
	被害度	0.2	0	0.5	2.2	3.9	0	0.0	0.1	0.2	0.2	0	0	0	0.1	0.2	0.5	0	7.8	0.2
県平均	被害果率(%)	2.0	0	20.0	18.8	26.3	0.3	2.8	3.1	4.3	2.9	0.5	0.9	0	1.0	0.4	2.7	0	34.7	2.0
	被害度	0.4	0	3.8	3.3	4.9	0.04	0.4	0.6	0.8	0.5	0.1	0.2	0	0.2	0.09	0.5	0	5.9	0.3
平年値 (H24~R3 平均)	被害果率(%)	0.4	0.1	11.7	28.3	11.3	0.2	4.4	3.2	0.5	1.4	1.9	0.41	0.01	0.6	0.1	0.07※	0.03	40.9	1.2
	被害度	0.08	0.03	2.8	6.6	2.1	0.0	0.8	0.6	0.1	0.3	0.5	0.07	0.002	0.1	0.04	0.01※	0.01	8.3	0.2

A(4):被害が著しく目立つもの B(3):被害が目立つもの C(2):被害がやや多く見られるもの D(1):被害が散見されるもの

$$*被害度 = \frac{7A + 5B + 3C + D}{7 \times \text{調査葉(果)数}} \times 100$$

※ホコリダニの平年値は、R3年調査より項目設定したため、前年の数値を記載
 ※※その他の項は、日焼け、刺し傷、押し傷などが該当